

# 古墳時代 1

鳥栖市教育委員会

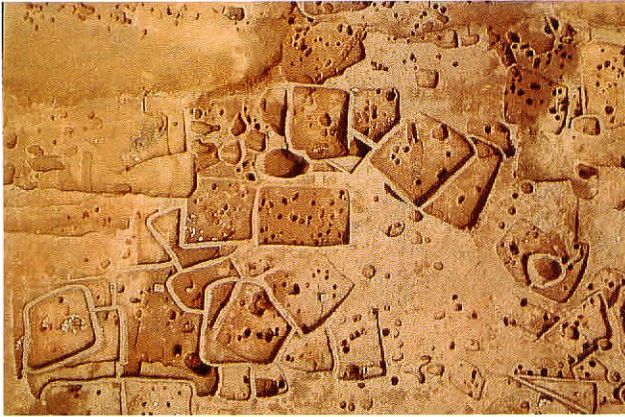


平原遺跡全景（北から）

3世紀後半になると、首長クラスの墓に「前方後円(方)墳」というそれまでにない形の墓が出現し、作りの薄い甕に代表され庄内、布留式土器と呼ばれる一連の土器群とともに、近畿地方を中心に、九州や関東地方にまで広がっていきました。こうして古墳時代が始まりますが、この時代の特徴は、墓や土器、住居などの生活様式に地方色がなくなり、北海道・東北を除くほぼ全国が画一的になることです。

柚比遺跡群では、3世紀末の赤坂前方後方墳（永吉町）が、古墳が造られ始めたころのもので、あとは本川原遺跡（永吉町）などで「方形周溝墓」という3世紀末から4世紀前半頃にかけての墓が確認されています。4世紀後半から5世紀の古墳には、平原古墳（柚比町）、太田東方古墳（田代本町）があり、6世紀になると、大木川の東側に剣塚古墳、東田古墳（高速道路の工事で破壊）、庚申堂塚古墳、岡寺古墳のような大型の前方後円墳や装飾古墳の田代太田古墳など首長クラスの大型の古墳が造られます。これらの前方後円墳からは円筒埴輪（筒状の埴輪）が、また剣塚古墳、岡寺古墳からは人や動物、武器をかたどった形象埴輪がみつかっています。6世紀後半から7世紀代には、杓子ヶ峰から群石山、雲野尾峠の山麓一帯に群集墳と呼ばれる小規模な古墳が大量に造られます。

集落遺跡は、今町岸田遺跡、大久保遺跡、平原遺跡、梅坂炭化米遺跡が調査されていますが、いずれも6世紀代のものです。



古墳時代の住居跡（平原遺跡）

この時代の住居跡の特徴は、形はほぼ方形で、4本の主柱によって屋根を支える構造です。住居跡の大きさを比べても、弥生時代よりも小さくなっています。また弥生時代のものとの構造上の大きな違いは、カマドを備えていることです。カマドをもつことで当時の生活は格段に飛躍したことでしょう。



炭化米の出土状況（梅坂炭化米遺跡）

炭化米とは、米が焼けるなどして炭化したものです。柚比遺跡群でも梅坂炭化米遺跡から炭化米が出土しています。炭化米は土坑から出土していますが、そこからは、柱などが焼けた炭化材もみつかっています。また、周囲にも焼けた住居跡が確認されています。これらのことから、この集落は火事で焼けたとみられ、年代も古墳時代後期（約1400年前）であることを考えると筑紫国造磐井の乱（527年）との関係がうかがわれます。



馬を埋めた穴（柚比梅坂遺跡）

柚比梅坂遺跡内にある古墳のそばに馬を葬ったとおもわれる穴が確認されています。2 mほどの楕円形の穴から馬の歯が出土しています。古墳に葬られている人に関係しているのではないかとおもわれ、当時、すでに馬がかなりの財産もしくは貴重な存在であったとかがえられます。



遺物出土状況（永田古墳群）

古墳時代の遺物は明らかに弥生時代の遺物とは大きく異なります。土器に関しては、古墳時代前半は古式土師器とよばれる弥生時代後期終末の土器に近いものがでてきます。時代が経つにつれ土師器本来の赤く薄い土器になっていきます。また須恵器といわれる高温の登窯で焼かれた灰色の堅い土器が現れます。この土器の出現により、土器は新たな時代を迎えていきます。